



同窓会は、奈良学園大学アリーナ内に事務室を設置し、運営しております。



喜びや感動の扉を開けよう

同窓会会長 池田 順子

柿の実や木々の梢も色づき始め、秋の気配を感じる頃となりました。
幸いなことに、コロナが終息しつつある今、各地で人々が多

数集う様子がマスクミで報道され、暮らしに活気が戻ってきました。同窓会の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。私たちは、この三年余り、コロナから様々な影響を受けてきました。経済的打撃を受けたことは何にもまして大変でした。また、人との繋がりが狭められ閉塞感の中、体験の機会も損なわれました。それに加えて、地域により、気候変動による災害もあり、予期しなかった被害がもたらされています。これらを記したことは、同窓会誌として直接関連しない話題と思われるかもしれませんが、しかし、命を繋ぐ上で、これから先も災害、苦しみがあると考える時人々の連携や助け合い、

協力を通して、人の痛みや悲しみを共感しあい、希望へと繋げていきたいものです。今回の会誌に寄稿して下さった記事からも大切な事を学ばせていただくことがたくさんあります。自然をめでることによる喜びや楽しさを語られ、また、働き方について、恵みの共有感や、喜びを味わえる経験の大切さを述べておられます。善野先生は、子どもの体験を豊かにする指導方法を示唆されています。いずれも感性の豊かさ、人と接する喜び、環境から何かを見出し出して共感していく喜びを語られています。同窓生のお二人もコロナ禍の中、医療従事者として、また肉親の看護、介護にと心を尽くされています。本心に敬服します。筒井先生は、「海の夢」で光が差し込む海の輝きが、未来につながる、自然の美しさが希望のように思えます。私は、七月に環境活動家の方



第 41 号
令和 5 年 9 月 1 日
〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘3-15-1
奈良文化女子短期大学
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部
同窓会 まほろば
題字 名誉学長 足立 浩

同窓会総会について

日時：令和 5 年 10 月 15 日 (日)
13:00~14:00
場所：奈良学園大学
議案：令和 4 年度決算報告
令和 5 年度予算について
同窓会の運営について
役員会開催をもって総会とさせていただきます
あります。

同日開催 奈良学園大学大学祭のご案内
10:00~16:00
テーマ「Gift (ギフト)」
みんなの記憶に残る学祭へ
みんなが幸せになれる学祭へ
模擬店 サークル演奏 ビンゴ大会
11:30~12:10 よしもと芸人お笑いライブ
「同窓会まほろば」から 10:00~16:00
「こどもどうぶつえん」を提供します。

の講演を聴きました。気候変動で海水温が上昇し、世界中のサングの七割が、沖縄の海では九割が死滅していると報告されました。マーシャル諸島などが沈没の危機にさらされていることは周知の如くです。「二酸化炭素をこのまま出し続けると、これからの世代には未来がなくなる。」と警鐘を鳴らされました。そして、「気候危機と海洋プラスチックの問題は一緒で、私たちの生活、消費スタイルや経済の在り方を大きく変えないと地球はもたない。それぞれが、できることから行動し、社会を変え、地球を救おう。」と訴えられ、多くの聴衆者の共感を得ました。

希望につながっていくことを、これから何に取り組みかを語り合い、少しずつ実践していきましょう。
二〇二六年、「同窓会まほろば」は、発足六十周年を迎えます。集い、おおいに話し、笑い、大きな声で「学歌」を歌い、楽しい同窓会を開催しましょう。最後に、良き先生方に恵まれ、学んだことが活かされていることに感謝しています。奈良学園のますますのご発展と、先生方と同窓生の皆様のご健勝をお祈りし、ご挨拶とします。



ご挨拶

学校法人奈良学園 理事長 伊瀬 敏史



同窓生の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。私は理事長に就任して六年目となり、学園の発展のために微力ながら日々尽力しています。

さて、奈良文化女子短期大学でかつて教鞭をとっておられた筒井通子先生（現在、奈良学園大学特別客員教授）が二〇二二年九月に二科会の会員に推挙されました。二科会は一九一四年発足の伝統と由緒のある美術家団体です。会員と会友があり、美術上の業績により先ずは会友に推挙され、さらに会友のうち美術上の業績が顕著であり、全会員により構成する二科美術展覧会出品審査会において会員に推挙されたものが会員になります。筒井先生は二〇一八年に会友に推挙されていました。会員に推挙されたのは奈良県では二人目、奈良県の女性では初めてということでした。

二〇二三春季二科展の出品作品は「海の夢」というタイトルで、絵の説明は「海の中で見る「夢」光が差し込み色が輝き出します。現在、過去、未来がつながります。新しい自分が見つけられるかもしれませぬ。「ねえ、いっしょに夢を見ましょよ。」見ていると「夢」がぶくぶくとわいてきます。枠をこえるのもー。」となつて見ます。見る人が自分の感性や経験で見えてくるものがある、見るものが何となく何かを感じる、といった絵です。私はこの絵の枠をこえて飛び出しているユニークさに感動をしました。今、日本はイノベーションによる大きな変化が求められています。枠を超えた新しい発想による新技術や新事業の創造を思い、今日の日本社会に求められていることを象徴しているように思いました。

皆様におかれましては是非とも同窓会総会などで登美ヶ丘キャンパスへ足をお運びいただき、新しい大学のキャンパスをご覧いただきたいと思ひます。コロナ禍を乗り越えて皆様のご健勝をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。



一 作品紹介

筒井通子 奈良学園大学特別客員教授
公益社団法人 二科会 絵画部 会員



2023 春季二科展「海の夢」



第106回
2022 二科展
会員推挙
「海の夢Ⅲ」

御挨拶

元衛生看護学科長・教授 森本 美佐



同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。「まほろば」を拝見させていただきました。皆様と過ごした若かりしあの頃を思い出します。

私は、奈良文化女子短期大学衛生看護学科の最後の学科長として務めさせていただきました。その後、幼児教育学科で5年勤務させていただきます。

私が衛生看護学科で教員をしていた17年間の色々なことを思い出し、還暦は過ぎましたが、もう少し彼女たちと一緒に看護教育の現場で頑張ろうという気持ちになります。

幼児教育学科の卒業生から、保育士や幼稚園の先生としての近況報告や、結婚や出産の連絡をいただきます。「みさママに習った沐浴が役に立った」と話してくれまます。幼児教育学科での5年間は本当に楽しかった思い出ばかりです。

新型コロナウイルスが5類に変更されましたが、看護や幼児教育の現場では、まだまだ大変な問題が起きています。どうか皆様ご自愛くださいませ。また同窓会でお会いできる日を楽しみにしております。

御 挨拶

奈良学園大学 社会・国際連携センター長

人間教育学部 特任教授 善野 八千子



皆様お変わりございませんか？私たちを取り巻く社会の加速度的な変化を実感します。「テクノロジーは指数関数的な進化を遂げ、人工知能（AI）は人間の覇権を脅かすまでになった。」と言われます。令和 3 年度文部科学省委託事業「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」では、「子どもの体験を豊かにする ICT の活用」が進められています。保育の現場では「虫メガネではなく、タブレット」を活用されることも散見されます。「2022 年度ソニー幼児教育支援プログラム」で優秀園となった取組を紹介しましょう。

地域のさんぽ「アジサイ探検」で子供たちがタブレットによって自分で撮った写真をまずはグループ内で見ながら共有します。タブレットの写真はアジサイの花についた雨粒ひとつひとつまで鮮明に映っており、子どもたちは自分のアジサイを改めて眺め「きれいだな」と、つぶやいたり拡大したりしています。

その後、クラスのみんでテレビの大画面で共有するとタブレットだけではわからなかったことが見えてきて話し合いが始まるというものです。

また、オックスフォード大学オズボーン博士の論文によると、702 業種を調査した結果「定型的業務・大量の知識の蓄積が必要な業務」があと 10 年で「消える職業」と予測されました。そして、「企画立案・対人関係業務」は残る業務とされました。そうです。保育士・教師は残る仕事と明確に示されたのです。

今後も保育士は、子供の未来を創り、社会に参画する保護者を支えるためにも、なくてはならない重要な職業です。子どもの「意欲スイッチ」を押す仲間として卒業生の皆様と語り合える時間がある事を願っています。

(引用 <https://www.city.ashiya.lg.jp/gakkoukyouiku/20230131youtiennyuusen.html>)

会誌既刊 抜粋再掲

平成 13 年第 19 号
頑張れ！卒業生

元食物栄養学科長・教授 澤田 参子

令和五年七月十九日ご逝去



食べ物単に体の成長だけでなく、人間のすべてを育ててくれます。喜びも悲しみも優しさもすべて「食」からです。私は、こんな素晴らしい食物について学べたこと、そしてそれを多くの人に伝えられる職にあったことに喜びを感じています。

私は、何よりも学生が大好きで、三十年間一緒に楽しんできました。学生が社会に出て、「出身校は、奈良文化女子短期大学です。」と自信を持って言えるようにと私も力が入ります。2 年間で役に立つ栄養士を育てようと厳しくし、課題も山のようにあり、服装、言葉遣いまでよく注意しました。課題が多すぎて自分も夜中まで必死でした。卒業生からの手紙に「いつまでも恐い先生でいてください。」などと書いてあるとうれしいような複雑な気がします。最近、私が年を取ったせいなのか、学生のほうが一枚上手なのか厳しさも恐さもなくなってきたと言われ

ています。

思い出もいっぱいあります。寒い日や暑い日の喫食は、大変で、長時間立ちっぱなしで作ったのに売れ残りすると疲れも倍増します。学園祭の弁当作りは、圧巻でタレント等も見られず朝早くから何百食と作りまがすむとすぐに帰った人、在学中にママになった人、レポート提出期限日に我が家まで持ってきた人、留年したが栄養士をとるまで頑張った人、みんなみんな覚えていきます。

卒業生もそれぞれに頑張っています。管理栄養士にも大勢なっています。職場で、栄養士として仕事をするだけでなく、新聞に栄養記事を掲載したり、栄養学会で発表したり、地域で栄養指導をしたり、そして、もちろん家族の健康のために学んだことをしっかり生かしています。そんな情報を聞くたびに教師をしていてよかったと思えます。

これからも、「食べることを大事にし、本学の食物栄養学科の卒業生であることに誇りを持って頑張ってほしいと願っています。

平成元年第7号 花の道

元図書館長・教授 井上 哲夫

平成二十三年二月ご逝去



神社の社にかこまれた草叢で、私たち小学生の格好の溜まり場であった。

今のバス停は丁度川縁で、バスの走っている道は清冽な水の流れる高田川の川床であった。この附近一帯は、また、私たちの猟場であった。獲物は、小魚、きりぎりす、くつわ虫、螢、蟬、クワガタ虫、かぶと虫・・・川、草叢、森からありとあらゆる宝物を手でできるいわば秘密の楽園といえる場所であった60年近くたった今、短大までの道も、昔の面影はまったくとどめていない。見渡す限りの水田と草叢であった所に家が建ち並び店もできた。移り住んでいた人達はみな心の優しい花好きの人なのであろうか。四季の草花が家々の庭に軒下に私を和ませてくれる。どれだけの花がつくられているのか勘定してみた。バラ、石竹、キンセンカ、矢車草など昔からあった草花のほか、クレマチス、ベルラゴニウム、ペチュニア、ベゴニアなど、ざっと数えて30種の中には流石の花好きの私にも名のわからない最近の花も何種かあった。芽吹き、蕾が膨らみ、綻び、そして咲き誇る。花々を眺めながら通う大學への道は、誠に楽しい道であ

大和高田市駅からわれらが短大の正門までは私の足で二四五〇歩の歩数になる。これは万歩計で何回も計っているのが正確さには自信がある。時間にして20分、消費エネルギー約70キロカロリーのこの道を天気さえ良ければ歩いて通うことにしている。それは健康のためもあるけれども、この付近は私の子どもの時の縄張りであったことにもよる。当時、私の父は、高田高校（当時は高田高女）に勤めており私の家はこの学校のすぐ傍にあった。私の通っていた小学校は、町立高田男子尋常高等小学校といひ今は移転しているが、その跡地に建てられたのがスーパーのニチイと南都銀行である。高田市駅前のバス停のすぐ北側に石園座多久虫玉神社の鳥居があり、傍らの石碑に昭和6年7月竣成とある。私が12歳、小学6年の夏である。そのころこのあたりは川に面し、

る。花といえは毎年新入生を大歓迎してくれる堤防の桜並木を忘れることができない。昔このあたりの桜の名所といえは御所提か檀原の蘇武の桜であったが、今やわが短大堤の桜が近隣随一であると私は思っている。



高田1号館前芝生で井上哲夫先生とピンクや白色のネジバナを探しました

平成10年第16号 葛城山のふもとの森の物語

元教授 前川 貞子

平成三十年九月ご逝去



葛城山のふもとの森におばさん兎が住みついて10年になります。若くて元気な兎さん達がこの森で2、3年を過ごし、「ふわふわってそれからおちてきたまっしろなきれ」を持って、「わたしのワンピースをつくらう」と出ていきました。ワンピースがそろそろできていた頃でしょうね。「できた できた ララン ロロン わたしにあらうかしら」と言っている森を出

たばかりの兎さん達、似合いますとも、とても素敵！自信をもって歩いて行きました。歩いて行く道がワンピースを染めたり模様をつけたりしてくれます。いろんな道を歩いて、ワンピースの模様が次々に変わった兎さん達、まだまだ曲がり角や分かれ道がありますよ。曲がった向こうに違った景色が広がって貴女のワンピースに別の模様をつけてくれます。悲しみ色が幸せ色に変わることだって。いつも元気に「ララン ロロン ランロン」と歩いて行きますよ。



葛城山を臨む

の世界が、私たちに与えてくれる慰めや励ましを。必ずしも思い通りにはならない現実の生活に与えてくれる夢とゆとりを。生活のくびき（自由な思考・行動を束縛するもの）をはずして想像の世界を飛び回る喜びを。兎さん達の手をしっかりと握っている子兎さん達に、どうぞ絵本を読んであげてください。絵本は、読書への第一歩。子兎さんは、お母さん兎のやり方を見てワンピースを作るだけでなく、皇后さま（現上皇后さま）のおっしゃった「翼」を持つことができようようになるでしょう。

森にいる灰色ワンピースのおばさん兎、腰やひざがガクガクしようとも、素敵にワンピースの夢はみられます。

〔わたしのワンピース〕西巻茅子 こぐま社一九六九年

平成13年第19号 卒業はこの道への新たな第一歩

元福祉学科長・教授 福原 信子



大きな櫛の緑が斜めに影を落とす風情を背景に、頼まれて「ハイ、チーズ」とシャッターを切る私の眼に入るその女性の表情は、確かな幸せを語りかけているようでした。

その女性は、15年前に幼児教育学科を卒業し、今は島根県で保育士として働き、一度は母校へ是非にと大阪への出張の帰り立ち寄ったもので、奈良文化を基盤にした教養やあたたかさ。優しさを体得して今日に至っているが言葉にできないほど感謝していると語っておられました。

思えば、福祉学科の卒業生も百名を超えました。「初めての一人夜勤で明け方まで緊張していた」「在宅訪問先でシーツの糊付けでのごとを言われた」など、卒業生が現況報告に来てくれます。その表情は輝き、介護福祉士としての誇りをもって仕事をしている、という顔をしています。この時ほどたのもしく、うれしさを感ずるときはありま

せん。

最近、心に残ったことがあります。先日、学生たちと参加しました明日香養護学校で開催された「わたぼうしミニコンサート」で演奏された曲についてです。片岡君子さんの作詞、永戸庸子さん作曲の「ひとつの願い」という曲です。その曲は、「お便所にひとりで行けるようになります。たったひとつの願いです。」と始まりました。この曲を聴きながら私も学生も涙をこぼしました。どれほど利用者の皆さんの気持ちを理解して介護に携わっているだろうか。自己研鑽と柔軟な思考をもとに、大地に根を張る大樹の恵みを共有する働きをしたいと思いました。

【検索】わたぼうしコンサート
ひとつの願い



懐かしい福祉棟

平成13年第19号 出逢いと学び

元衛生看護学科長・教授 梶原 朱實



故きを温めて新しきを知るといふ諺がありますが、毎年入学してくる学生の皆様との出逢いの日々の中、この諺をかみしめながらすごしています。衛生看護学科に奉職させて戴いて三年の月日が経ちました。長年看護婦として、臨床の場、看護学校で、経験し学んできたことを改めてほりおこし生かす日々の中、看護の本質について深く考えさせられると共に、若い皆様と関わるうち人間として主体的に生きていくことの大切さや、優しさについてあらためて感じさせられています。最近、臨床の経験を学生としての立場で生かす日々を送っておられる方にお会いしました。毎日が発見の日々で楽しいと言われた事がとても印象的でした。21世紀は、やはり主体的に学び行動する事を要求されていると思います。

看護職に求められている事に敏感に感じ取り各々の立場で主体的にとりくみ、毎日が楽しい

教養学科 臨地講義の思い出

奈良県桜井市 山辺の道



三輪山



歌碑のある道



東山魁夷書



川端康成書



と言えるようにしていけたらと願います。学ばされているのではなく、学びたいから学ぶという日々の中には、楽しいと思えることが沢山埋もれているように思います。故きを温めているうち、医療の世界のみならずこの日進月歩のすばらしさに驚くと共に、変わらぬ尊いものも沢山ある事に感慨深いものを感じます。しかし何事も越えてこそ

喜べる事を微力ながら授業に生かしていきたいと思っております。自分の希望にむかって看護職を選択された学生に心から応援を送り、共に逃げる事なく前向きに一つ一つぶつかっていったらと考えています。若き皆様がいっつの日か、真に看護職を選んでよかったと思えるように、先輩の教えを学び直し新しい事を発見する喜びを味わえるよう経験を大切にして、お互いの出逢いをこれからの宝にしていきたいものです。

縁とは異なるもの 35年大和高田に住んで

昭和59年 衛生看護学科卒業 植村(山本) 智栄



2019.3 記念パーティ 娘と共に

私は、高校、短大と5年間学び、北かつらぎ寮、ふたかみ寮での寮生活を経て、看護婦になりました。卒業後は、大阪の病院で4年働いた後、助産婦の資格を取るために、再びキャンパスのある大和高田に戻って来ました。ふたかみ寮の寮母さんだった竹村先生のお家を借り奈良医大まで通学しました。橋本登喜子先生のお宅にも一緒に住まわせていただきました。今年で、35年大和高田に住み、還暦を迎えました。

美ヶ丘キャンパスにも保護者として訪れることができました。そこで、寮監先生だった桜井秀子先生と再会しました。母校の最後の卒業生が卒業した時に、同窓会主催の記念パーティに親子で出席させて頂き、感極まりない思いになりました。

コロナ禍の3年3ヶ月で、私は、奈良に住んでいることの素晴らしいことを認識しました。令和2年3月の東大寺二月堂のお水取り「修二会」は、閑散としていました。まばらでした。有名なお寺である東大寺、唐招提寺、興福寺、法隆寺もそのような状態でした。その中で、ゆっくりと参拝できることに複雑さを感じました。奈良時代、天然痘の流行で多くの人が亡くなりました。人々は、感染症との闘いの中でお寺に救いを求めました。一三〇〇年という奈良文化の伝統を感じました。医療従事者としてコロナに関する仕事もしたこの間、奈良に住んでいることに感謝しました。あと10年この仕事をしたいと思いません。



昭和のころの最寄り駅 近鉄大和高田駅 近鉄高田市駅 通学に利用したり奈良・大阪・京都へと出かけていきました。

コロナ禍で母を見送って

昭和61年 初等教育学科卒業 三澤(牛尼) 陽子



在は総合病院で病棟の事務員として働いています。

ここ数年間は、実家の母の面倒をみる日々でした。病院で働いていても、少しずつ意思疎通ができなくなり、昔のことばかり繰り返し話すようになった母に対して怒ってばかりでした。自分の親だといふ感情的になっってしまうし、現実を受け入れられず、自分が情けなかつたです。母に手を貸すことが一つまた一つと増えていき、繰り返し話す昔話を笑って聞くことができるようになります。「自分も同じように手を掛けて育ててもらってきたんだ。」と今さらながら感じました。施設に預かってもらった最後の二年間は、コロナ禍になってしまい、コロナのこ



とが理解できていない母とは通院時しか会うことができず、「こんなことになるならばもっとたくさん話をしたり、一緒に出掛けたりしておけばよかった。」と後悔しています。ただありがたいことに、関わっていたいた人に恵まれて、その人々に支えられて過ごせたことは心から感謝しています。そして母を見送って一年余り、今は花が好きだった母を見習って季節の花を飾るようになりました。今年の五月から少しずつマスクを外す機会が増え、会いたい人に自由に会いに行けるようになります。当たり前のことが当たり前にできる日々に戻っていくことを願うばかりです。

令和4年度の同窓会決算及び令和5年度同窓会予算について下記のとおり報告します。

会計報告

令和4年度 同窓会決算書

(収入の部)

項目	金額(円)
前年度繰越金	86,563,798
内訳	81,503,984 定期預金 5,059,814 普通預金
会費	0
収入	0
利息	1,414 <small>普通預金 32 定期預金 1,382</small>
合計	86,565,212

令和5年度 同窓会予算書

(収入の部)

項目	金額(円)
前年度繰越金	84,358,406
内訳	81,505,366 定期預金 2,853,040 普通預金
会費	0
利息	1,382 <small>利率(年) 0.002% 国税15.315%</small>
合計	84,359,788

(支出・資産部)

項目	金額(円)	備考
事務局費	410,726	事務室運営費
事業費	463,246	会誌発送作業料・こども動物園提供
備品費	0	
通信費	966,474	会誌発送メール便・切手・電話代他
印刷費	351,360	会誌、封筒
光熱水費	0	
慶弔費	15,000	
予備費	0	
小計	2,206,806	
定期性預金	81,505,366	
普通預金	2,853,040	
小計	84,358,406	
合計	86,565,212	

(支出・資産部)

項目	金額(円)	備考
事務局費	500,000	事務室運営費
事業費	600,000	会誌発送作業料・こども動物園提供
備品費	100,000	
通信費	1,200,000	会誌発送料他
印刷費	500,000	封筒、会誌
光熱水費	0	
慶弔費	100,000	供花
予備費	100,000	
小計	3,100,000	
定期性預金	78,505,366	(3,000,000解約普通預金へ)
普通預金	2,754,422	
小計	81,259,788	
合計	84,359,788	

奈良文化女子短期大学、奈良学園大学奈良文化女子短期大学同窓会の令和4年度の経理について監査いたしましたところ、その内容は適切なものと認めます。

令和5年4月1日
会計監査 新谷 初予
会計監査 岡部 るり子

<p>謹んでご冥福をお祈り申し上げます</p> <p>た白衣の先生を思い出しております いつもお元気で洗刺としておられ 令和5年7月19日ご逝去 84歳 幼児教育学科、小児栄養担当 令和5年7月19日ご逝去 84歳</p>	 <p>澤田 参子 先生 元食物栄養学科長</p>	<p>昭和44年〜平成20年 在職 食物栄養学科 栄養指導 給食管理担当</p>	<p>昭和50年〜平成6年 在職 図画工作担当 令和5年7月7日ご逝去 85歳 とても素敵なお声を懐かしく思い だしております</p>	 <p>北村 謙一 (北村昭斎) 先生 螺鈿の人間国宝。漆 芸家。正倉院宝物の 修理復元に携わる</p>	<p>計 報</p>
---	---	--	---	--	------------

令和4年度 会務報告

9月1日会誌発行

10月9日
総会・役員会
会計報告
会誌の発行
について 他

STAFF EDITORS

- 池田 順子・櫻井 秀子
- 赤崎 良子・杉本 昭子
- 坪井 佳子・柘田 昌子
- 新谷 初予・岡部 るり子
- 唐戸 栄子・成瀬 恵美子
- 牧浦 信恵・西井 祐子
- 柿本 幸子・大西 恭子

会誌送付先変更(住所変更)・会誌送付停止の連絡について

*会員番号・卒業年・学科・在学時氏名を郵送又はメールでお知らせください。
様式 奈良学園大学 HP → 目的別メニュー → 卒業生のかたへ → 短大同窓会
郵送先 〒631-8524 奈良市中登美ヶ丘3-15-1 奈良学園大学内
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 同窓会まほろば事務室
Email:nwc-mahoroba@nara-su.ac.jp
Tel:0742-47-2260 原則 水曜日 10:00 ~ 13:00開室